

■研究室名 日本文学研究室（3号館1階） ■教員名 加藤禎行

■日本文学研究室について

日本文学と言っても幅広いのですが、わたくしはもっぱら、明治以降の日本文学（日本近代文学）を研究しています。ですから、みなさんが高等学校の現代文で学んだ、森鷗外「舞姫」、夏目漱石「こゝろ」、芥川龍之介「羅生門」、梶井基次郎「檸檬」、中島敦「山月記」など、近代小説についての勉強の延長線上にある学問なのだと説明することができます。しかしながら、大学では、語句の意味や作者の考えに留まらない、幅広い視野での小説の読み方を考えていきますし、採り上げる小説も必ずしも皆さんが耳にしたことのある小説ばかりではありません。

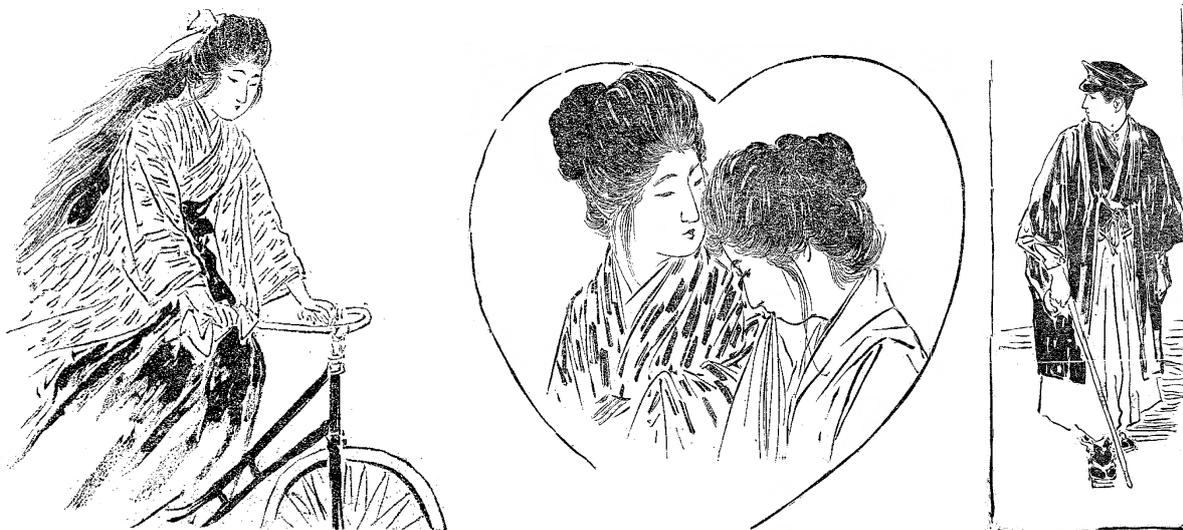
わたくしが、取り組んでいる研究テーマは、「夏目漱石を研究対象とした作家研究」「日清戦争後から日露戦争後にいたる文壇動向の研究」「明治・大正期文学の研究」「明治・大正期の新聞・雑誌メディアの研究」の四点です。そもそも、近代日本において〈文学〉は、芸術的営為でもあり、テレビ・ラジオ同様の娯楽でもあり、政治的闘争の道具でもあり、一攫千金の夢でもあり、貧乏と引き替えに自己実現を図る道でもあり、青年達の思想的背景でもありました。このように、多種多様な役割を果たした日本近代の〈文学〉は、日本近代の生活と文化の痕跡をとどめた膨大な資料体として、わたくしの前に息づいています。こうした豊かさが〈文学〉の魅力です。

高等学校で用いる国語便覧・国語教科書には、簡単な文学年表が収録されていますから、どうぞ参照してみてください。高等学校の国語科の文学史（あるいは日本史の文化史）では、作家・作品について簡単に触れただけで、まだみなさんが十分に知らない作家・小説が、たくさん並んでいるはずです。そうした高等学校での学習が、大学での勉強の最初の扉になっていると思います。

■授業内容について

○日本文学Ⅳ（近代）

この授業では、半期にわたって日本近代文学の長篇小説を、それもどちらかというとエンターテインメント性の高い、家庭小説や通俗小説などを意図的にテキストとして選択し、講読していきます。



図版は小杉天外『魔風恋風』挿絵より（『読売新聞』1903〈明治36〉年3月～9月連載）。

近代文学の長篇小説の多くは、新聞・雑誌などのメディアに、毎日あるいは毎月、連載されながら発表されました。現在でも NHK では、朝の連続テレビ小説という言い方が残っていますけれども、当時の読者は、みなさんが連続ドラマを視聴するように長篇小説を読んでいた。毎週の授業で、少しずつ丁寧に小説の場面を検討しながら読むことで、小説世界についての理解を深めていきたいと思います。小説世界の楽しさを伝えることも狙いとした、2年生向けの授業です。

○地域実習



図版は中本たか子肖像写真、および山口県立山口図書館における文学資料展示。

この授業では、複数の教員がそれぞれのプログラムを学生に提供しています。地域の文化について理解を深めていくことを狙いとした、3・4年生向けの授業です。わたくしは、普段みなさんがあまり触れることのない、初出雑誌・初版本、直筆原稿・書簡といった文学資料を用いて、調査研究をすすめるメニューを提供しています。これらの資料は、本学の附属研究機関である郷土文学資料センターに所蔵されているものです。昨年度は、昭和期の女性作家である中本たか子（下関市角島出身）について、調査研究を行ったうえで、解題集・展示パネル等をみんなで分担して作成し、山口県立山口図書館および本学内で展示を行いました。今年度も、地域の文化についての知見を、学内外に向けて発信していくプログラムメニューを準備しています。

○専門演習Ⅰ・Ⅱ

専門演習は3年生向けの授業で、学生による口頭発表が中心となる、大学ならではのゼミ形式の授業です。前期には短篇集を、後期には複数の長篇小説を扱うことで、日本文学を解釈し分析していくための思考方法・調査方法・発表方法を身に付けます。また、教材として、日本近代文学館が復刻した初版単行本のレプリカを用いることで、同時代の読者の読書経験を、現代日本に生きるみなさんに追体験してもらうことも、授業の狙いとしています。

この専門演習Ⅰ・Ⅱで身に付けたスキルをもとにして、4年次においては、卒業演習Ⅰ・Ⅱで受講者各自の問題意識によって研究テーマが選択され、それぞれの卒業論文に取り組んでいきます。